

# 高山

たかやま  
高山の原生林を守る会

会報 第 76 号

2011年3月



## 第 114 回・鬼面山東山麓ブナ林観察会

1月30日(日)に第114回観察会・鬼面山東山麓ブナ林観察会を実施しました。参加者は11名でした。心配された天候もまずまずで車2台に乗り合わせて四季の里を出発しました。旧115号線から除雪でできた雪の壁を越えともうそこは一面のバージンスノーとブナ林の世界です。歩き始めると冷気が朝日に反射するダイヤモンドダストが少しですが視線に入りました。柔らかな雪の斜面を辿るように投影する曲線的な枝の影が別世界にいることを実感させます。圧倒的なブナの中にサラサドウダン、ヤマツツジ、ナナカマド、リョウブなどがわずかですが確認できました。沢筋に辿り着くと、空間が開け、ダケカンバがまとまって植生していました。こんもりと盛り上がった雪面を登りきると、果実を付けたダケカンバの枝が目の前に現れました。めったにない好機に果実を観察する輪ができました。寒気が入ったのか、雪がちらつき始めましたが、適度の間隔で植生しているブナ林の散策は実に気持ちがいいものです。やがて、扇のように対称的な枝を広げた形の良い大ブナにたどり着きました。ここから斜面の上を見ると樹1本生えていません。崩壊雪崩の常襲地帯でした。思い思いに大ブナを觀賞しました。ブナ林を下り、最後にパウダースノーに悪戦苦闘しながらイグルー作りにトライしました。



ブナ林の雪上散歩

## 鬼面山東山麓ブナ林観察会に参加して

佐藤昌子

1月30日(日)第114回 鬼面山東山麓ブナ林観察会を実施しました。

観察会は旧国道115号沿いの駐車場からスタートしました。一步山へ踏み入ると、そこは美しいブナ林と手つかずの真っ白な銀世界が広がりました。曇り空の間からは時おり、太陽の日差しが入り樹木の影がとても美しく、見とれてしまいました。

散策開始より早速、冬芽の観察会となり(私には正直まだ難しい)会員の皆様の豊富な情報に驚きつつブナ・ウリハダカエデ・リョウブ・アオハダ・オオカメノキ・ヤマモミジ・ダケカンバ等の冬芽の観察が出来ました。ダケカンバの冬芽を目の高さで見れたのは、積雪のお陰でしょうか?この時期ならではの体験でした。雪崩の起きやすい地形では日当たりの良さからブナの枝が地面近くから伸び、ダケカンバは群生せずにまばらに生えることや、また散策途中ではリョウブの冬芽に特徴があることを教えて頂きました。傘を被った様な姿はとても印象的でした。

さて、下山は山スキー組3名がスイスイと滑り降り、8名のスノーシュー組が続き、大きなブナの下で記念撮影となりました。そして、最後はイグルー作りです。雪上に円を描き掘り下げながら雪のブロック作りを試みるも雪質がパウダースノーで固まらず、更に掘り下げて固めの雪をブロック状に切り出し、周りに積み上げました。全員で輪になり、なんとか腰を降ろし、ピッタリ寄り添いながらの昼食タイムは忘れられません。屋根までの完成には至りませんでした。イヌイット民族の仮設住宅気分は味わえた(?)ものと思います。

私は初めてスノーシューを体験しましたが、普段経験出来ない冬山の雪上散策は素晴らしいものでした。



観察ポイントはそれぞれに



ダケカンバ果実の観察



イグルー作り (ブロックができず悪戦苦闘)



リョウブの冬芽と果実



窮屈ですが何とか出来ました

## 種髪 鎌田和子

12月初めの昼過ぎ、家の近くの公園の前で、孫が帰ってくるのを待っていると、目の前に、白いふわふわしたものが飛んできました。「あっ、これかも！」とすぐに追いかけてきました。それは、何日か前から気になって探していたものかもしれないのです。先日、夫が、小さくて平べったいタネと、それに付いていたという白い絹糸のようなものを拾ってきたのです。夫から、「これ、何のタネ？」と聞かれましたが、私にもそれが何のタネなのかは分かりませんでした。なんか前に見たことがあるような…、いえ、初めて見たような…。その絹毛のタネは、ふわふわと風に乗ってやってきて、たまたま、わが家の敷地に舞い降りたのでしょうか。もっと落ちていないかと探しましたが、見つかりませんでした。周囲を見渡しても、それらしい果実をつけた植物は見当たりません。

そういういきさつの「ふわふわ」が、偶然、目の前を飛んで行きます。アスファルトの舗装路に着地するのを目で追い、駆けて行って近づくと、ふわっと飛び立ってしまう。「コラ、待て！逃げるなッ！」の繰り返しの末、やっと捕まえました。そのタネは、やはり夫が拾ったものと同じ形をしていました。さて、これは何のタネなのでしょう。この時期に、絹毛になって種子を飛ばす植物って何かしら？思いつきそうな感じがするのですが、何も浮かんできません。そうこうしているうちに、孫が帰ってきたのをしおに「ふわふわの果実」のことをすっかり忘れていました。

この忘却が意外といい結果を招くようなのです。頭を冷やすことになるのかもしれませんが。数日後、家事が一段落し、腰を下ろしたとたん、「ふわふわ」を思い出しました。あの日、紙切れに挟んでポケットに入れたままだったのです。急いで取り出しました。が、もう白い絹毛は見つかりません。幸いタネのほうが見つかったのでほっとしました。日ごろは植物にあまり関心を示さない夫ですが、この「ふわふわ」は気になっていたらしく、調べるのを手伝うと言います。それで、多田多恵子さんの「種子たちの知恵」という本を、夫に見てもらうことにしました。私は、タネの形が、一見ナツツバキに似ているので、念のため植物図鑑でナツツバキのページを繰りました。やはり、ナツツバキのタネに絹毛などついているという記述はありません。次は何を手がかりにして調べたらいいのやら…。手持ちの植物図鑑の「樹に咲く花」かな、「野に咲く花」かな、どちらから調べようか、それよりは、あの「ふわふわ」が飛んできた先を探したほうが…なんて思ったりして、調べに集中できずにいると、夫が「これが似ているかな？」と声を発しました。本を受け取ってよく見ると、バックを黒くして「絹毛とタネ」がはっきり見えるように撮った写真が小さく載っていました。〈ガガイモのタネ〉でした。白い絹毛は、種子の一部が変化したもので、形態学的には『種髪』というのだそうです。

謎の生き物の正体が分かると、ナアーンだと思うのはいつものことなのですが、ガガイモの果実に、ずうっと昔、私は出会っていたのでした。阿武隈川の土手近くで、その『風変わりな実』の裂け目からのぞいている白い絹毛に驚いたことや、そのときに、夫が小さい頃、その白い毛を「血止め」と呼んで、いっぱい集めたりしたことがあると言っていた記憶が蘇って、ホントに「ナアーンだ！」と、二人で笑ってしまいました。あの頃は、純白に輝く絹毛の束に見とれ、一つ一つのタネは見えてなかったのでしょうか。それが20数年を経た今、庭先に落ちていた1個のタネが夫の視野に入り、その何日か後には、ガガイモのタネの1個が「移動」しているところに、私が出会ったのでした。偶然の重なりとはいえ、運よく謎が解け、気分はさわやか！さっそくガガイモの果実を探しに出かけました(2010.12.24)。



種髪の舞！



タネが飛び去り…『天の羅摩船』に！

4月3日(日)には「高山の原生林を守る会・自然観察会115回」が鹿狼山で行われることになった。担当は私になっている。内容は鹿狼山のスプリングエフェメラルとスマイレの観察である。例年4月の第1週目土日にはカタクリ・キクザキイチゲ・アヅマイチゲなどは開花しているので、この日に決定した。

鹿狼山は430mの小さい山であるが、カタクリの群落を見ることができる。しかし、寒い年、暖かい年で、前後1週間くらいずれるので、丁度見頃にあたるかどうかはその時期になってみないと分からない。昨年も、この日ならばと思い、東京からお客3人を迎えたが、3月下旬が意外に寒く、カタクリは鹿狼山の入り口で2・3輪開花している程度で、後は蕾だった。それでも、カタクリの蕾が大切に守られるように葉っぱに包まれ、寒さをしのいでいる姿が、お人形のようにかわいいわと、スケッチブックを取り出して、丁寧に描かれて行った。東京でカタクリを見ようと思えば大変な行列で、立ち止まったり、スケッチをしたりすることはできないそうである。「こんなに、ゆっくりとカタクリをみたことはなかった。」ということなので、私としてはほっとしたのである。翌週の4月11日にも登ってみたが、満開の中にもしぼんだものがあり、盛りは過ぎていた。本当によい時期は短いのである。

カタクリ・キクザキイチゲ・アヅマイチゲなど春先に一斉に咲いて、咲いたかと思うとすぐに消え去ってしまう。このような草花をスプリングエフェメラルといい、「春の儂いもの」「春の短い命」という意味で、温帯の広葉樹林帯に適した植物であり、春の明るい林床で光合成を行い、根茎や球根に栄養を蓄える。と本には説明されていた。明るい日差しの中で花びらをくると巻き上げて、うつむきがちに咲くカタクリの花は、誠に美しく、誰もが引きつけられる花である。4月3日に会員の皆様がここに来られるときは、お天気の良い日であることを祈りたい。

さて、スマイレの方であるが、鹿狼山には12種類のスマイレがあることを以前「鹿狼山のスマイレ達」という題で書いたことがある。アオイスミレ、マキノスマイレ、マルバスミレ、ヒナスミレ、エイザンスミレ、アカネスマイレ、タチツボスマイレ、オオタチツボスマイレ、アケボノスマイレ、サクラスマイレ、ニオイタチツボスマイレ、ツボスマイレで12種類となる。例年3月末にはアオイスミレが咲くので4月3日にはきっと会えると思う。丸い葉っぱに、薄青い花びらで、この花びらがひらひらとフリルようになっており、とても愛らしいのである。「スマイレのプリンセス」と言われるヒナスミレには少し早いかもしれない。

寒い冬も峠を越え、春の気配がする今日この頃である。鹿狼山の林床、土中のカタクリの球根はどのくらい目覚めているのだろうか、掘り起こしてみたい気がする。

(2011/02/27 記)



鹿狼山のカタクリ群落



お人形のようなカタクリの蕾



アオイスミレ

## 西吾妻山域登山道保全に対する環境省の方針

裏磐梯自然保護官事務所に西吾妻登山道保全対策と吾妻連峰生態系保全協議会の設立について申し入れをしていましたが2011年2月9日にそれに対する回答と説明がありました。その概要は以下の通りです。

出席者

環境省東北地方環境事務所裏磐梯自然保護官事務所

首席自然保護官 新田弘市、自然保護官 福地壮太

NF 米沢

代表 青柳和良、副代表 竹田洋之

高山の原生林を守る会

代表 佐藤 守、事務局長 奥田 博

裏磐梯自然保護官事務所の説明(福地氏)

6月に若女平コースおよび西吾妻小屋－西大巔山頂間の登山道周辺の植生崩壊に対する環境省としての対応と吾妻連峰全体の自然環境保全協議会設立の要望があった。会津森林管理署と一緒に現場を踏査して申し入れのあった地域の現状を確認した。その後、環境省としての対応を検討してきたが、今回、当面の方針が固まったので説明したい。

### 1. 協議会設立について

飯豊山地保全協議会については、地元の山岳会の強い思い入れと活発な保護活動に対する協力があって成立している。会合には50名を超える参加者がある。吾妻連峰の場合は、関係機関の意識もばらばらであり、協議会立ち上げは現状では困難と考えている。

### 2. 若女平コースおよび西吾妻小屋－西大巔山頂間の登山道周辺の植生崩壊対策について

協議会立ち上げとは別に今回問題になっている箇所に対する個別の対応策について検討した。自然公園計画図では西吾妻－一切経縦走道路の事業執行者としては、東大巔を基点として東側が福島県、西側が山形県とすることで合意している。これは昭和48年9月7日に環境省の公園事業計画として決定したものである。従って西吾妻小屋－西大巔山頂間は山形県が現在の管理責任者である。若女平コースについては管理責任者が空白となっている。このような行政上の枠組みに基づき、環境省としては以下のように対応することとした。

#### (1) 西吾妻小屋－西大巔山頂間の登山道保全

山形県が事業執行者である以上、環境省が主体的に動くことはできない。まず、行政機関とのすり合わせをする必要がある。具体的には、関係する行政機関(山形県、米沢市)に担当者レベルで接触し、現状を説明し、事業執行者としての対応策を検討するよう働きかけていきたい。その後、自然保護グループも含めた民間関係者も参加した意見交換会を設けることも検討したい。

#### (2) 若女平コース

管理責任者がいないので裏磐梯自然保護官事務所が主体となって対応していきたい。まず、東北地方環境事務所に相談をし、対策を考えていきたい。

高山の原生林を守る会からは、以下の2点について要望した

1. 行政的に管理責任者が明確にされても、実態として機能しなければ植生崩壊は進行してしまう。民間の自然保護団体などが参加した協議会を設置することで、行政的対応の遅れが明確になるし、行政同士の連携も可能となる。山岳の自然保護や登山道保全に関する大学の研究や環境省の取り組みでもこのような協議会方式が最も効果的であることが認識されつつあるので協議会立ち上げについても検討されたい。なお、山形県の対応次第ではNF米沢とともに要望書を提出することも検討したいので適宜、情報提供していただきたい。

2. 水場から西大巔の区間は、地形的な問題も植生崩壊に関係している可能性もあるので、木道の設置など物理的対応だけでは崩壊防止は困難ではないかと危惧している。専門家による現地調査も検討されたい。

これらの件については、NF米沢・青柳代表からも同様の意見が述べられた。また、登山道は環境省、登山道以外のエリアは森林管理署と区分されているが、実態としては登山道周辺も一体的に植生崩壊が進んでいる。特に若女平はそのような現象が顕著であり、行政的に割り切ることは必ずしもできないとの意見が述べられた。



若女平下山口湿原の植生崩壊

## 東北ブナ紀行 (41)

奥田 博

山形県小国町はブナで町興しをはかっている。その位、ブナのいい山が多くある。町には山に登らなくてもブナを見ることの出来る森がいくつかある。前回紹介した「温身平」もそのひとつ。今回は、山のブナと遊歩道からのブナの二ヶ所を紹介したい。

### 80) 祝瓶山

祝瓶山は鋭い三角形の山頂が、どこからでも目に付く。朝日連峰南端の山であり、縦走の出発点・終点の山でもある。ブナだけを鑑賞するならば、本格的な登りになる尾根の取り付きまででも楽しめよう。

登山は荒川に架かる吊橋で始まる。対岸に渡り、しばらく歩を進め大石沢小屋を過ぎるとブナ原生林の中へと入って行く。200年モノの太いブナも見られる。雰囲気をもっとも良いのは、尾根の取り付き付近。この辺は、粒揃いのブナ林で見ごたえある。ブナを写真に収めながら歩くのは楽しいが、尾根に取り付くといきなりの急斜面で、一気に汗を絞られる。苦しさが頂点に達した頃に、鈴出の清水が現れた。ザックを降ろして、沢まで降りてブナの恵みである冷たい水をいただいた。この上も、白い幹の若いブナの森が続いた。さらに登れば、ブナも次第に矮小化して太いブナは見当たらなくなる。やがて展望の尾根に出れば山頂は目の前だ。登山口から山頂までブナの変化が楽しめる。

コースタイム：登山口 (30分) 尾根取り付き (30分) 鈴出の水 (2時間30分)



祝瓶山のブナ

山頂

### 81) 横根健康の森

横根山の南側に町営のキャンプ場「横根健康の森」が造られている。テント場やバンガローがあり、そこから遊歩道が整備されてブナ林を鑑賞できる。町が「白い森」と称する通りここのは、幹が白いブナ林が特徴だ。比較的乾燥して、コケが付着しないのであろう。それだけに明るいブナ林の印象が強い。



キャンプ場を抜けて最初は古い街道で「石畳の旧峠路」と呼ばれる道から歩き始める。杉林の中を抜けると、石畳が現れるが、苔むして滑る。やがて聖観音が祀られている峠に差し掛かった。急な斜面を越えると尾根道となり少し展望が得られる。やがて美しいブナ林の中を歩くようになる。比較的若いブナなのは、すぐ脇を林道が通っているので、伐採されたのかも知れない。二次林で、未来の森とでも呼べそうだ。林道を進むと二つの展望台となる。最初が朝日連峰で、後が飯豊連峰がよく望まれる。車道を少し戻って、ブナ林遊歩道へと入ると、白いブナの二次林が広がる。林床にはユキツバキの濃い緑が広がり、典型的な雪国のブナ林だ。下



横根健康の森の白いブナ

るに従って白くて太いブナも見られるようになる。そんなブナを眺めながら下ると、キャンプ場へと戻った。

コースタイム：キャンプ場登山口 (20分) 聖観音 (20分) 朝日展望台 (45分) キャンプ場登山口

## オオヤマザクラ (*Prunus sargentii* バラ科サクラ属)

ブナ林に植生する落葉広葉樹。日本海側要素のサクラで多雪地帯を中心に分布する。吾妻、安達太良山域でのサクラ属は標高による垂直分布が明瞭で沢筋に見られるエドヒガンに始まりカスミザクラ、ウワミズザクラ、オクチョウジザクラ、オオヤマザクラ、ミネザクラとまるで種の襷を連ねるようにして山登りを果たしている。別名エゾヤマザクラ、ベニヤマザクラ。

葉は互生し、未展開葉は赤みを帯びる。葉形は倒卵形で先端は細く長くとがる。葉縁は単鋸歯にわずかに重鋸歯が混じる。鋸歯の先は芒(のぎ)の様に突出して尖り、先端に腺がある。蜜腺の位置は葉柄上部の葉身直下に着生する。葉柄、葉身ともに無毛である。葉の裏面は白みを帯びている。カスミザクラは葉柄が有毛で葉の裏は緑色であるので鋸歯の形と併せて識別の手掛かりとなる。

花は腋性で散形花序。葉の展開と同時に、ひとつの花芽から1~3花を咲かせる。花序の基部には柄および苞は認められない。花弁は5枚、花弁の先端は浅く窪む。花弁の色は桃色~淡紅色を帯び、華やかである。がく筒や花柄などいずれの花器も無毛である(カスミザクラの花柄は有毛)。新芽や芽鱗には粘性がある。

サクラはすべてサクラとの認識しかなかった頃に、残雪の残る高山の的場川を訪ねた。芽吹き始めたブナの枝が早春の日差しを照り返し、きらきらと輝く森の中で鮮やかな桃色に包まれた樹に遭遇した。萌黄色を背景にしたその姿に桃源郷を連想した。オオヤマザクラの開花期にはイタヤカエデなどのカエデ類やスマレ類も咲きそろう、森は花の季節となる。特にイタヤカエデとの競演は秀逸でその様を現す言葉を失う。オオヤマザクラはブナの森に春を告げる代表的な花の樹と言えるだろう。



## ウツギ (*Deutzia crenata* ユキノシタ科ウツギ属)

別名ウノハナ。コナラ-クリ林やミズナラ-クリ林の日当たりのよい林縁に植生する落葉低木。樹姿は株状となり、全体が星状毛で被われる。

葉は対生し、葉形は楕円形で先端部が細長く尖る。葉縁は細かい鋸歯がある。葉身の表裏両面ともに星状毛が着生する。星状毛の中心から突き出る枝の本数は表が6本程度、裏が12本程度で裏は表の倍の本数となる。

花は頂性。前年の葉腋から伸長した枝の先端に円錐花序を形成する。花弁およびがく片は5枚。雄しべは10本であるが、花糸には翼があり、翼の上端は尖って突き出る。これが更に発達し八重咲きとなったものは(シロバナ)ヤエウツギと呼ばれる。雌しべは3、4本の花柱を伸ばす。花糸より花柱の方が長く、柱頭と葯の位置関係が葯下位タイプの花である。花の時期は花序の重みで下垂する。唱歌「夏は来ぬ」の歌詞では「卯の花の匂う垣根に」との一節があるが花に香りはない。

ウツギと名のつく植物は多く、吾妻・安達太良で観察できるものだけでもアジサイ属のノリウツギ、スイカズラ科のタニウツギ、ツクバネウツギ、ウゴツクバネウツギ、ミツバウツギ科のミツバウツギ、バラ科のコゴメウツギなど多数挙げるができる。いずれも茎の中心が中空になっているウツギとの類似性から命名されたものらしい。

ウツギは万葉の和歌にも詠まれており、古くから人々に愛されてきた樹である。おそらく古の頃は山野に普通に自生していたものと思われる。しかし、吾妻・安達太良山麓では見かけることはほとんどない。私の場合も花の写真撮影を始めた年に遭遇してから、安達太良山麓で再会したのは10年以上も後のことである。いずれも八重咲きタイプであったが、この山域ではもはや貴重種と言ってよいだろう。ウツギと名のつく樹木はいずれも今は普通に見られるが、これらの樹木がウツギと同じ運命をたどることの無いことを願うばかりである。



### 第 115 回自然観察会案内：鹿狼山自然林観察会

日時：2011年4月3日（日）7：00～16：30

集合場所 集合場所：小鳥の森第1駐車場 集合時間：7：00 参加定員：20名

内容 早春の鹿狼山を散策し、スマレやカタクリなどのスプリングエフェメラル、イヌブナ、シデ類、カエデ類などの萌芽の様子を観察します。

準備するもの 昼食、登山靴・長靴等、雨具、スパッツ類、防寒具、帽子、手袋（軍手複数）、着替、ゴミ袋、筆記用具、メモ帳、ルーペ（萌芽やスマレの観察に、あると便利です！！）

\*装備、その他不明な点があれば申し込み時にご相談下さい。

参加費用：保険代（300円）

申し込み：4月2日（土）まで佐藤守（024-593-0188）へ電話またはメールにてお願いします（電話申込は午後7時～9時でお願いします）。\*メール申込みの際には、全員返信モードでお願いします。

### 第 116 回自然観察会案内：米沢 斜平山新緑と春の花巡り観察会

日時：2011年5月15日（日）7：00～15：00

集合場所 福島県果樹研究所

集合時間 7：00 参加定員 20名

内容 ネイチャー・フロント米沢と共催で斜平山の新緑と春の花を観察します。

準備するもの 昼食、登山靴・長靴等、雨具、スパッツ類、防寒具、帽子、手袋（軍手複数）、着替、ゴミ袋、筆記用具、メモ帳

\*装備、その他不明な点があれば申し込み時にご相談下さい。

参加費用：保険代（300円）

申し込み：1月29日（土）まで佐藤守（024-593-0188）へ電話またはメールにてお願いします（電話申込は午後7時～9時でお願いします）。\*メール申込みの際には、全員返信モードでお願いします。

### 西吾妻登山道誘導ロープ設置ボランティア（詳細は佐藤守まで）

行政機関の対応が不透明ですので、今まで通り継続していきます。ご協力を宜しくお願いします。

1. 実施日 : 6月19日（日）6時30分～17時30分（雨天時6月26日に順延）
2. 内容 : 天狗岩～西吾妻避難小屋湿地帯（Aコース）と西大巓水場周辺（Bコース）の誘導ロープの設置作業を行います。
3. 集合場所・時間：（Aコース）福島県果樹研究所 6時30分  
（Bコース）四季の里正面入口駐車場 7時

### 2011年弥兵衛平「ネイチャーフロント米沢」植生復元事業計画（詳細は佐藤守まで）

- ◆ 第一回採種作業（種採り） 8月21日（日） 荒天時の予備日 8/28
- ◆ 第二回採種作業（種採り） 9月4日（日） 荒天時の予備日 9/11
- ◆ 播種（種まき）・緑化ネット被覆・防霜用むしろかけ作業 10月2日（日） 荒天時の予備日 10/8  
締切 8月11日（森林管理署・環境省への届出のため、早めの締切になります）  
いずれも7時20分ロープウェイ湯元駅集合 帰着は17時頃  
参加費 無料（ロープウェイ・リフトの運賃も無料です）  
参加者 吾妻連峰の弥兵衛平湿原まで往復4時間の登山が可能な方

持ち物：昼食・飲み物・活動日の季節にふさわしい登山に適した服装、装備

荒天で延期する場合：当日朝6時30分ごろに電話でご連絡いたします

悪天候による予備日：ボランティア作業では活動日の翌日以降に予備日を設けています

新年度の会費納入をお願いします：郵便振替02170-0-24351「高山の原生林を守る会」へ

「高山」高山の原生林を守る会会報 第76号 2011年3月発行  
編集・発行：高山の原生林を守る会 HP：<http://www15.plala.or.jp/adumatakayama/index.htm>  
代表連絡先：佐藤 守 Phone 024-593-0188（夜間7時～9時）  
郵便振替：02170-0-24351 「高山の原生林を守る会」  
入会方法：年会費（500円）を添えて上記まで  
編集：佐藤・奥田・鈴木